

コード	名 称	区分	コード	名 称
事業名	664 地場産業振興事業	会計	01	一般会計
		款	07	商工費
		項	01	商工費
		目	03	観光費
基本 施策	43 伊賀ブランドの価値を高め、売り出す	細目	336	観光振興経費
		細々目	51	地場産業育成事業
行革大綱の重点事項番号				
担当部課	コード	191400		担当者 氏名
	名称	産業建設部商工労働観光課		
			連絡先	43 - 2309 (内線)

事務事業の概要 (Plan)

対象(誰を、何を)	観光客、伊賀市の特産品生産者、物産振興団体 ※対象件数	
成果(どうする)	常設展示や体験により伊賀焼に対する理解を深めることができる。 伊賀市の特産品生産者の新商品開発意欲や物産振興団体の販路開拓意欲を高め、売上の向上による経営改善、製品のブランド化が進む。	
根拠法令・要綱等		
開始年度/平成	年度	関連事業
終了年度/平成	年度	
H21 事業 内容	○伊賀焼振興協同組合に伊賀焼伝統産業会館を指定管理として委託した。 ※入場者 4,831人 ○伊賀市物産協会へ地場産業振興事業を委託した。 ※地場産まつり、観光キャンペーンの開催 ○伊賀焼振興協同組合に伝統工芸品産業振興補助金を助成した。 ※新製品の開発研修・専門技術研修・専門技法研修 ※児童等への体験学習	
社会情勢 の変化等	○上野天神祭にあわせ地場産まつりを開催 ○各種観光キャンペーンに参加し、伊賀ブランドの存在を継続的にPRしている。	

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積 (延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体	
委託先	
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の 類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H20	H21	H22	H23
物産展への 出席回数		回	目標	4	目標	6
			実績	6	実績	8
			目標		目標	
			実績		実績	

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H20	H21	H22	H23
物産展催事の 売上高	物産展における特産品の売上高の前年度額を目標値に設定し、当該年度を評価		千円	目標	3900	目標	4000
				実績	4050	実績	4000
				目標		目標	
				実績		実績	
伝統産業会館 入館者数	伊賀焼を多くの方に理解していただく施設であり、その入館者数を指標とした		人	目標	3750	目標	4648
				実績	4648	実績	4831
				目標		目標	
				実績		実績	

投入コスト	H20 決算		H21 決算		H22 当初予算		H23 当初要求	
	(千円)		(千円)		(千円)		(千円)	
直接事業費計(A)	4,948		4,948		4,948		4,948	
Aの 財源 内訳								
国庫支出金								
県支出金								
地方債								
その他	0		0		85		0	
一般財源	4,948		4,948		4,883		4,948	
事業投入人件費(B)	0.5人	3,600	0.7人	5,040	0.7人	5,040	0.7人	5,040
フルコスト(A)+(B)	8,548		9,988		9,988		9,988	

事務事業の評価 (Check)

	判断の基準(該当項目に○をつけてください)	備考欄(特記事項)
必要性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業	
	個人の方だけでは対応し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業	
	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業	○
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業	
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業	
	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業	
	国や県、民間が同様のサービスを提供している事業	
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業	
	民間のサービスだけでは市場全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業	
	受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業	
有効性	事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業	
	【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】	
	地場産業は、雇用の創出や地域の産業経済への貢献度が高く、観光資源としても新たな観光ニーズへの対応が可能であるため、地域活性化の一助となる。	○
	財政状況を考慮し、事業を休止した場合は、市民生活への影響が大きい事業	
	【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】	
	地域の伝統産業の衰退並びに後継者育成が難しくなる。	○
	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。	○
	基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高	○
	サービス水準や対象を見直す余地がある。	
	当初設定した計画を 100% 実施している。 【計画に遅れが生じている場合、改善策】	
効率性	予算の繰越の有無	
	【予算の繰越がある場合、繰越の種別】	
	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。	
	基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。	
	【事業名】	
	受益者負担を求められることができる事業である。	
	全体コストにおける負担構成は適正である。	
	コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	伊賀焼六窯焼成体験事業の実施方法の再検討や学校教育との連携を強化し、入館者の増につなげる。 お菓子組合で取組んでいる「城下町お菓子街道」事業の自主運営を支援するとともに、他の団体にも新しい販売方法等の研究・開発を促す。平成21年度において事務局機能のあり方について検討を進める。
【状況】	計画のとおり進んでいる
【詳細】	
昨年度の 取組状況	学校における地場産業制作体験希望の増により多くの児童・生徒に伊賀焼に触れてもらうことができ、地域の特産品への理解が深まった。 城下町お菓子街道の取組みが定着してきており、ツーリストにより旅行商品化が進んでいる。 事務局機能について民間への移行を検討したが、零細弱小個店の集合体の団体で構成するため現状としては難しい。

今後の方向性 (Action)

担当課長氏名	松本 浩典
【方向性】	現状維持
【理由】	
事業の方向性	地域経済が疲弊している現状にあつては、地域独特の風土や歴史、文化、生活などと密接に関連している地場産業を再評価し、販売促進や地域ブランドの向上を目指すための支援が必要である。
現時点における 課題、その他	消費者ニーズの多様化、輸入品増加による製品単価の下落など地場産業を取り巻く環境は一段と厳しくなっており、それに伴い、特産品生産者の新商品開発や物産振興団体の販路拡大に対する意欲が低下してきている。
課題、その他に 対する改善策 (いつまでに、何を、どうする)	* 今年度において、城下町お菓子街道の取組みを手本とし、新たな情報発信や産地直売イベントを開催し、販売促進を図る。 * 地場産業そのものを観光資源として活用し、「学ぶ・体験する・ふれあう」などを求める新たな観光ニーズに対応させるため、今年度において観光商品メニューの充実を進める。